

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
農業	農業と情報	農業科学科	1年	2	農業と情報(実教出版)	全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集3級令和7年度版

<b>学習の到達目標</b>	<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
----------------	---

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学校での学習や実習、産業現場での実習を通して、農業に関する情報等をその目的や条件に合わせて活用できる知識と技能を体系的・系統的に理解している。	農業情報の活用について、環境への配慮や法令遵守などの職業人に求められる倫理観をもって思考を深め、科学的な根拠などに基づいて創造的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	農業情報を活用した事例をもとに、環境保全や農林業の持続的発展に果たす意義や役割に関心をもちながら、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
ペーパーテスト、実技など	ペーパーテスト、実技、レポート課題など	観察、レポート課題など

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4	第1章 私たちの生活と農業の情報化 1 情報社会における私たちの生活 2 情報とメディア	<ul style="list-style-type: none"> <li>データと情報、意思決定の過程と情報社会の発展について理解している。</li> <li>メディアリテラシーを身に付ける必要性を理解している。</li> </ul>	○	○	
5	3 情報社会とモラル 4 農業を支える情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報化社会の光と影について考えるとともに、SNSの使い方や、個人情報の取り扱い、知的財産権の保護、モラルについて考えている。</li> <li>農業の情報化の発展とデータ収集の大切さについて主体的に学習しようとしている。</li> </ul>		○	○
6	第2章 社会を支えるコンピュータ 1 コンピュータのしくみ 2 データや情報の表現 3 情報通信ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハードウェアとソフトウェアの概要について理解している。</li> <li>データや情報の種類とその表現方法について理解している。</li> <li>情報通信ネットワークのしくみと特徴について理解している。</li> </ul>	○ ○ ○		
7	4 インターネットのしくみ 5 情報セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットの概要と検索方法について理解するとともに、電子メールを適切に利用することができる。</li> <li>情報社会の脅威と情報管理の重要性について主体的に学習しようとしている。</li> </ul>	○		○
9	第3章 コミュニケーションと情報デザイン 1 情報表現のためのソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報を活用するソフトウェアについて理解している。</li> </ul>	○		
10	2 文書の作成と表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章作成ソフトウェアを利用して文書を作成できる。(全商ビジネス文書実務検定3級に向けての学習)</li> </ul>	○		
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>速度文の練習</li> <li>通信文の練習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10分で310字の文字を打つことができる。</li> <li>15分で簡単な通信文を作成することができる。</li> <li>文書作成ソフトウェアで分かりやすい文書を作成するための方法を考え、その表現を実現するための方法を判断できる。</li> <li>ソフトウェアの各機能を適切に用いて、伝わりやすく分かりやすい文書を作成する方法を主体的に学習しようとしている。</li> </ul>	○	○ ○	○
12	3 データの集計と視覚化	<ul style="list-style-type: none"> <li>表やグラフの種類、構成要素について理解している。</li> <li>表計算ソフトウェアの基本的な操作方法を習得している。</li> <li>情報を処理するための基本的な関数について、それぞれの特徴を理解し、使用するための技術を習得している。</li> <li>表計算ソフトウェアを用いてグラフを作成するための技術を習得している。</li> <li>目的や情報の種類に応じて、どのグラフが適切なかを考え、選択できる。</li> <li>表やグラフを用いることで情報を視覚的に分かりやすく表現する方法などを主体的に学習しようとしている。</li> </ul>	○ ○ ○ ○		○
	4 データベースシステムとオープンデータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>データベースソフトウェアの特徴と機能を理解し、データを活用することができる。</li> </ul>		○	
1	5 画像・図形処理ソフトウェアの利用 6 プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>画像図形処理・動画編集等のソフトウェアを利用して基本的な画像処理を行うことができる。</li> <li>プレゼンテーションソフトウェアの基本的な操作方法を理解し、スライドを作成するための技術を習得している。</li> <li>背景デザイン、アニメーション、図解などの、プレゼンテーションを効果的に演出するための技術を習得している。</li> </ul>	○ ○ ○		

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
1		<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的に情報を伝えるために、どのようなスライドを作成すればよいのかを考え、表現している。</li> <li>プレゼンテーションソフトウェアの適切な活用の仕方について主体的に学習しようとしている。</li> </ul>		○	○
2	第4章 スマート農業への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの重要性や農業情報システムの役割について理解し、AI やロボットの農業への利用や可能性を考えることができる。</li> <li>システム開発・設計の流れを理解し、モデル化について考えることができる。</li> <li>プログラム設計の流れやアルゴリズムを理解し、フローチャートを使って表現することができる。</li> <li>流れ図によってアルゴリズムを表現するための技術を習得している。</li> <li>人工知能の概要や農業における利用例及びロボット農機について主体的に学習しようとしている。</li> </ul>		○	
3	1 スマート農業のめざす将来			○	
	2 システム開発と設計 3 プログラムの設計		○	○	○

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
農業	課題研究	農業科学科	2	2	なし	危険物取扱者受験教科書 日本農業技術検定3級問題集

<b>学習の到達目標</b>	<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として農業機械の運転や食品加工に必要な引火性液体の取扱いについて必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 農業の各分野で取扱う危険物について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 農業技術に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
----------------	---

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業の各分野で取扱う危険物について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。	農業技術に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。
確認テスト、観察など	確認テスト、観察 など	授業態度、提出物の内容

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4	I オリエンテーション 1. 学習計画	・年間の学習計画を知る。	○		
5 ┌ 7	II 危険物取扱者資格 1. 目標の設定 2. 受験願書の記入・提出 3. 学習計画の立案 4. 資格取得に向けた取り組み 5. 資格試験の受検 6. 結果と自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丙種、乙種第4類、乙種第4類以外の類の中から、各自の資格取得の受検種目を決定する。</li> <li>・各自の受検種目の願書を記入する。受験料を添えて、願書を提出する。</li> <li>・試験日までの日程を知り、内容の難易度を考えて、各自の学習計画を立案する。</li> <li>・それぞれのテキストと問題集を利用し、学習計画に基づいて試験合格に向けて取り組む。</li> <li>・難解な箇所は、繰り返し復習して理解を深めるなど、各自の課題解決に向けた工夫をする。</li> </ul> (6月下旬) ・結果を知り、各自の取り組みについて自己評価を行う。また、新たな目標を設定する。		○	○
9 ┌ 12	III 日本農業技術検定3級 1. 受検種目の決定 2. 検定内容の理解 3. 受検に向けた取り組み 4. 検定試験の受検 5. 結果と自己評価	[日本農業技術検定協会主催。1学年で習得した知識を基礎とするため、受検種目として「栽培系」が望ましい。] ・テキストを利用して、検定の内容と程度を理解する。 ・検定模擬問題に取り組む中で、1学年の「農業と環境」の学習内容の復習に合わせて、2学年の「野菜」「草花」「食品製造」「農業経済」など専門科目の学習内容の理解を深化させる。 ・(12月中旬、3級検定は筆記試験のみ) ・結果を知り、各自の取り組みについて自己評価を行う。また、新たな目標を設定する。	○	○	○
1 ┌ 3	IV 生物工学技術検定「中級位」 1. 検定内容の理解 2. 実技試験に向けた取り組み 3. 実技試験の受検 4. 筆記試験に向けた取り組み 5. 筆記試験の受検 6. 結果と自己評価	[富山県農業技術検定委員会主催(実技試験と筆記試験)] ・2学年の「植物バイオテクノロジー」で学習した『紫蘭の無菌は種』の無菌操作技術に習熟する。 (1月下旬) ・検定問題集などを活用して、2学年の「植物バイオテクノロジー」の学習内容の理解を深める。 (2月上旬) ・結果を知り、年間の取り組みについて自己評価を行う。	○	○	○

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
農業	農業と情報	農業 科学科	2年	2	農業と情報（実教出版）	全商ビジネス文書実務検定模擬 試験問題集2級令和7年度版

<b>学習の到達目標</b>	<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
----------------	---

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学校での学習や実習、産業現場での実習を通して、農業に関する情報等をその目的や条件に合わせて活用できる知識と技能を体系的・系統的に理解している。	農業情報の活用について、環境への配慮や法令遵守などの職業人に求められる倫理観をもって思考を深め、科学的な根拠などに基づいて創造的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	農業情報を活用した事例をもとに、環境保全や農林業の持続的発展に果たす意義や役割に関心をもちながら、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
ペーパーテスト、実技 など	ペーパーテスト、実技、レポート課題 など	観察、レポート課題など

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4 ~ 11	第3章 コミュニケーションと情報デザイン 1 情報表現のためのソフトウェア 2 文書の作成と表現 (全商ビジネス文書実務検定2級に向けての学習) ・速度文の練習 ・通信文の練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を活用するソフトウェアについて理解している。</li> <li>・文章作成ソフトウェアを利用して文書を作成できる。</li> <li>・10分で460字の文字を打つことができる。</li> <li>・15分で通信文を作成することができる。</li> <li>・文書作成ソフトウェアで分かりやすい文書を作成するための方法を考え、その表現を実現するための方法を判断できる。</li> <li>・ソフトウェアの各機能を適切に用いて、伝わりやすく分かりやすい文書を作成する方法を主体的に学習しようとしている。</li> </ul>	○ ○ ○	○ ○	○
12 ~ 1	第4章 スマート農業への展望 1 スマート農業のめざす将来 2 システム開発と設計 3 プログラムの設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの重要性や農業情報システムの役割について理解し、AIやロボットの農業への利用や可能性を考えることができる。</li> <li>・システム開発・設計の流れを理解し、モデル化について考えることができる。</li> <li>・プログラム設計の流れやアルゴリズムを理解し、フローチャートを使って表現することができる。</li> <li>・流れ図によってアルゴリズムを表現するための技術を習得している。</li> <li>・人工知能の概要や農業における利用例及びロボット農機について主体的に学習しようとしている。</li> </ul>	○	○ ○ ○	○
2	第5章 農業情報の分析と活用 1 農業情報の収集と分析 2 農業生産や経営情報の分析と活用 3 環境に関する情報の分析と活用 4 食品や地域資源に関する情報の分析と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業情報の種類と内容について理解し、収集したデータを分析し、主体的に活用しようとしている。</li> <li>・農業生産や農業経営、出荷・販売に関する情報について理解し、情報を活用する方法を考えることができる。</li> <li>・環境情報の種類と情報内容およびその活用技術について理解している。</li> <li>・食品の安全性や地域資源を守るための情報活用技術について理解している。</li> </ul>	○ ○	○	○
3	第6章 農業学習と情報活用 1 農業学習とプロジェクト学習 2 プロジェクト発表と情報発信 3 データの視覚化と分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業学習の特徴とプロジェクトの四段階について理解している。</li> <li>・プロジェクトを主体的・協働的にまとめている。</li> <li>・データの特徴を考え、収集したデータを統計処理することができる。</li> </ul>	○	○	○

